

「東アジア文化都市北九州2020▶21」について

北橋健治

東アジア文化都市とは

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としています。

北九州市は、2020年の「東アジア文化都市」開催都市に中国・揚州市、韓国・順天市とともに選定されました。「人をつなぐ。未来をつなぐ。」をキャッチコピーに掲げ、2020年3月に開幕しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの文化芸術事業が延期・中止となりました。そのため、2020年に続き2021年も本市が日本の国内開催都市（中国・紹興市、敦煌市 韓国・順天市）に選定され、12月末まで様々な文化芸術事業を実施しています。



「東アジア文化都市北九州2020▶21」メインビジュアル



東アジア文化都市
北九州2020-21
CULTURE CITY OF EAST ASIA in KITAKYUSHU

市民投票により決定したロゴマーク

「創造都市・北九州」へ～東アジアの響きあう交流を未来へ～

文化芸術の持つ創造性を、地域振興や観光・産業振興等に領域横断的に活用し、地域課題の解決に取り組む都市を「創造都市」と呼び、この試みは現在、世界中の多くの都市で、地域との連携のもとに進められています。本市においても、文化振興計画の中で、文化芸術を地域経済、教育、福祉などに生かし、創造的なまちづくりを進めることを謳っています。

北九州市は、歴史的・地理的にアジアの玄関口として発展し、多くの文化人を輩出するほか、多様な文化施設の充実や、先進的な文化芸術に取り組むなど、豊富な文化土壌を有しています。また、公害克服の経験等を生かし、アジア諸都市と国際技術協力や都市間交流を積み重ね、行政はもとより市民の草の根交流を育ててきました。

「東アジア文化都市北九州2020▶21」では、本市を舞台に、東アジアを始めとする、市民、産業界、多様なアーティストが集い、それぞれの創造性を最大限に引き出しながら交流・協働・融合することで、東アジア域内の相互理解を更に深めるとともに、新たな価値を生み出し進化させることを目指しています。

同時に、「東アジア文化都市北九州2020▶21」の開催を推進力として「創造都市・北九州」の実現を図ってまいります。

実施事業のご紹介（一部）

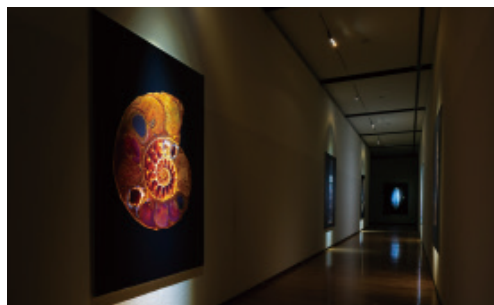
■北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs（2021年4月29日～5月9日）

「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」は、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsをテーマとした芸術祭です。

全国初となるこの芸術祭を開催するに

当たり、国内外の芸術祭でキュレーターとして活躍されている南條史生氏をディレクターとしてお迎えし、落合陽一氏や淀川テクニック氏、団塚栄喜氏といった国内のトップクラスのアーティストが市内で制作活動を行い、本市を題材とした作品を制作しました。

芸術祭には合計5万人を超える方にご来場いただき、アーティストの作品に込めた想いに触れていただきました。



落合陽一 《環世界の遠近法 ―時間と空間、計算機自然と芸術―》（会場風景） 2021



淀川テクニック

《北九州のドーデー》 2021 / 《北九州のフロオオカミ》 2021

・特集1：東アジア文化都市（2020-2021）



団塚栄喜

《Medical Herberman Cafe Project》2021

■東アジア文化都市北九州2020▶21
交流式典（2021年6月6日）

「東アジア文化都市北九州2020▶21交流式典」では、『「未来」と「対話」-Future&Dialog-』をテーマに、日中韓がそれぞれの国を代表する演目を披露しました（中国、韓国の都市は公演映像での参加）。本市は、日本舞踊、長唄、三味線、お囃子で、本市をテーマとした新作「門司春秋」を上演し、藤間蘭黄氏（日本舞踊家）と山村友五郎氏（上方舞・日本舞踊家）、長唄囃子青年楽団 清響会が出演しました。

また、舞台美術には本市の伝統工芸である「小倉織」を使用し、北九州の自然豊かな風景を表現しました。



門司春秋

■未来につなぐ東アジア伝統芸能の
饗宴（2021年8月29日）

日本を中心としたアジアの芸術文化を発

信していくため、日中韓の伝統楽器「箏」による新曲の協演、トップクラスのアーティストと市民による新作舞踊などを披露し、日中韓の伝統芸能への理解を深め、楽しんでいただく事業を開催しました。

■東アジア文学会議2021（2021年9月20日）

「東アジア文学会議2021」では、「地球を聴く～持続可能性と文学ができること～」をテーマに、日中韓の文学者が集うシンポジウムや講演、俳句朗詠劇等を開催し、「文学の街・北九州」を発信するとともに、文学を通じた国際交流を図りました。

東アジア文化都市2020▶21北九州を
振り返って

2020年・2021年、我々は新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るう未曾有の事態に直面しました。感染症の影響により、社会や人々の関係が分断を余儀なくされている昨今の状況は、多くの人々の心に影を落としています。

そのような中、本市が「東アジア文化都市北九州2020▶21」に取り組むことで、多くの方に文化芸術に触れていただき、人とのつながりを感じ取ってもらうことには大きな意義があったと考えています。

コロナ禍における新たな文化交流や国際交流など、東アジア文化都市に選定された本市だからこそ取り組むことができた様々な文化事業を通して、人々に生きる勇気と感動を与える、本市の「文化の灯」を絶やすことなく未来につないでいきたいと考えています。

（勤務先：北九州市市長）